



横手市議会だより

あなたと市議会

No.56

平成30年
10月15日号



CONTENTS

9月定例議会の概要	2~3	先進地から学ぶ	16~17
決算審査	4~7	子育て世代と市議会議員との懇談会	18
一般質問	8~12	議会報告会を開催します	19
常任委員会・分科会審査報告	13~15	シリーズY8・議会の主な動き	20

可決 一部賛否が分かれる中、市長提案の全議案 台風21号による農業被害対応に追加補正



9月定例議会のあらまし

9月定例会は、8月27日から9月21日までの日程で開催されました。

初日は、市長から当面の市政運営に関する所信説明の後、人事案件2件に同意し、専決処分2件の報告を受けました。提案された16件の議案は、陳情と共に3つの常任委員会と一般会計予算特別委員会に、平成29年度各会計の決算認定22件は決算特別委員会に付託して審査が行われました。また、9月6日には、公用車の事故による損害賠償額を定める議案が追加提案されました。

最終日の本会議では、台風21号による果樹等の農業被害支援のための一般会計補正予算が追加提案され、一般会計予算特別委員会に付託し審査が行われました。

議案全て原案のとおり可決し、陳情1件が採択されました。

人権擁護委員の推薦

任期満了に伴い、織田智恵子氏(増田・再任)、上法快晴氏(雄物川・再任)を推薦することに決まりました。

「増田まんが美術館」を指定管理へ

世界一の原画収蔵数を誇るマンガに特化した美術館として、平成31年5月にリニューアルオープン予定の施設を、「一般財団法人横手市増田まんが美術財団」に指定管理させる議案が提案されました。

高橋聖悟議員より反対の立場で、「現段階では、施設運営や管理等具体的に決まっていなことが多すぎ

るため、指定管理させることはリスクが高い。大切な事業であるからこそ、当面は市直営で運営し、今後の展望をしっかりとさせた上で、次のステップとして指定管理を考えるべき。市は『マンガ活用構想』を策定したものの、具体的な事業展開やまちづくりを含めた市の理念が見えない。維持管理費を年間約1億1100万円と見込んでおり、平均入場者数13万人や入場料収入約1900万円という想定は、類似施設と比べ過大な見積もりだ」との討論がありました。

「増田まんが美術館」を指定管理へ

採決の結果、賛成15、反対9(欠員1、議長除く)で可決しました。

「山内観光振興公社」に対する市の貸付金を一部放棄

公共温泉施設民間譲渡により、鶴ヶ池荘を運営していた第三セクター(株)山内観光振興公社が今年3月末日定、他21会計は全会一致で認定しました。

7月臨時議会の概要

任期満了に伴う副市長選任のため、7月31日に開かれた臨時議会では、全会一致により、藤本和宏氏の再任に同意しました。

賛否が分かれた議案と審議結果

●この他の議案は全員賛成により可決されました。
○：賛成 ●：反対 退：退席 ※齋藤光司議長は採決に加わりません。

案件名	議決結果	原案可決				修正案可決				不採択			
		賛成	反対	退席	欠員	賛成	反対	退席	欠員	賛成	反対	退席	欠員
横手市の公文書館開設についての陳情	賛成	14	9			15	9			0	2		
山内スキー場継続維持についての陳情	賛成	14	10			15	9			0	22		
横手市の公文書館についての陳情	賛成	14	10			15	9			0	22		
テレビ共同受信施設の大規模改修工事に係る工事費用の負担軽減についての陳情	賛成	14	10			15	9			0	22		
平成30年度横手市一般会計補正予算(第2号)	賛成	14	10			15	9			0	22		
平成30年度横手市一般会計補正予算(第2号)の修正案	賛成	14	10			15	9			0	22		
公の施設の指定管理者の指定について(横手市増田まんが美術館)	賛成	14	10			15	9			0	22		
権利の放棄について(株式会社山内観光振興公社に対する貸付金)	賛成	14	10			15	9			0	22		
平成29年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定について	賛成	14	10			15	9			0	22		
表決数		14	9			15	9			0	22		
新風の会	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	青山 豊	●	●			○	○			○	○		
	加藤 勝義	●	●			○	○			○	○		
	奥山 豊和	●	●			○	○			○	○		
市民の会	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	佐藤 誠洋	●	●			○	○			○	○		
	高橋 聖悟	退	●			○	○			○	○		
	木村 清貴	●	●			○	○			○	○		
さきがけ	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	山形 健二	○	○			○	○			○	○		
	大日向香輝	○	○			○	○			○	○		
	菅原竜代嗣	○	○			○	○			○	○		
新 政 会	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	菅原 正志	○	○			○	○			○	○		
	齋藤 光司	-	-			-	-			-	-		
	菅原 恵悦	○	○			○	○			○	○		
日 共 産 党	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	寿松木 孝	●	●			○	○			○	○		
	播磨 博一	○	○			○	○			○	○		
	塩田 勉	○	○			○	○			○	○		
公 明 党	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	佐々木喜一	○	○			○	○			○	○		
	遠藤 忠裕	○	○			○	○			○	○		
	小野 正伸	○	○			○	○			○	○		
みらい新緑会	賛成	14	9			15	9			0	22		
	反対	9	10			15	9			0	22		
	佐藤 清春	○	○			○	○			○	○		
	佐藤 忠久	○	○			○	○			○	○		
	鈴木 勝雄	●	●			○	○			○	○		

陳情の審査結果

- 陳情5件が審査され、次のような結果になりました。(敬称略)
- 採 択**
 - 地方消費者行政に対する財政支援(交付金等)の継続・拡充を求めることについて (秋田県弁護士会 会長 赤坂 薫)
 - 不 採 択**
 - テレビ共同受信施設の大規模改修工事に係る工事費用の負担軽減について (小栗山テレビ共同受信施設組合 組合長 高橋 正巳 外4名)
 - 横手市の公文書館について (横手郷土史研究会 会長 高橋 務)
 - 山内スキー場継続維持について (横手市スポーツ少年団 山内支部長 土谷 久男 外7名)
 - 横手市の公文書館開設について (平鹿地方史研究会 会長 小林 一敏 外3名)

健康・福祉・環境

学童保育支援員の充足を望む

学童保育支援員は、勤務時間が短いため、それだけでは生計を立てるのが難しく、慢性的に足りない状況にあると聞かすが、昨年度はどれだけ足りなくて、どう克服したのか。

答弁 募集の他にも市の担当者がハローワークで説明会を開催している。勤務時間が夕方であったり、夏休み中は一日いっぱいということで応募は少なく、短時間雇用制を導入し対応している。



医療従事者の確保を

医療従事者の確保について、どのような手立てをしたのか。

答弁 医師確保について、横手病院は秋田大学との連携が大きなウェイトを占めているほか、医学生を集めて病院説明会を開催し臨床研修医の獲得に力を入れている。大森病院は県から自治医科大学の義務年限のある医師等の派遣を受け入れているが、昨年度は1名減になり、臨時的に秋田大学や平鹿総合病院等から外来医師を補填してもらった。



災害見舞金規定の見直しを

比較的新しい建築物には床暖や高气密の建物があり、床上・床下浸水に関係なく、床をはがして土砂を出さなければならないなどの事例が出始めているが、規定を見直さなければいけない時期ではないのか。

答弁 昨年大雨では、消毒にかかる支援や洗浄に係る水道料の減免など各部署で支援を実施しており、それらと合わせてトータルで見直す必要があると考える。



合葬墓に対する市の考えは

墓園整備計画について、合葬墓に対する市の考え方はどうなっているのか。

答弁 家族形態の多様化により全国的な問題と考えている。必要性も感じているが、まずは市民ニーズを探る必要がある。境内墓地では無縁化している墓地も見受けられており、今後の状況と合わせて墓園整備計画の見直しの中で判断していく。



市営温泉譲渡問題で賛否割れる

平成29年度一般会計歳出決算額 519億3973万3020円

認定

9月定例議会は「決算議会」と言われており、前年度の一般会計及び特別会計、企業会計22件を審査し、全て認定しました。この中で、平成29年度一般会計決算について、本会議での討論と総括質疑、決算特別委員会各分科会において、各分野ごとに委員が質した質疑をピックアップしてお伝えします。

反対討論

本会議では、平成29年度一般会計歳入歳出決算に対し、2人の議員から反対討論がありました。

立身万千子議員

第三セクターや市営温泉譲渡問題では、突然に空調設備修理に1億円以上が計上されるなど、重要な問題で、議会との協議や市民への丁寧な説明が一切なく進められた。誰に対しても忖度ない議論と現場の率直な声を常に位置づけ、市民の血税を心して予算執行すべきであり反対する。

奥山 豊和議員

第三セクター(株)増田町物産流通センター清算に係る補助金3000万円の支出は、法律に抵触する懸念が残る。民間譲渡する温泉3施設の現状復旧費用相当額の負担金1億1000万円については、公募要綱で「現状のまま引き渡す」としていた方針にブレがあり、これまで議会に示してきた数字にその都度ばらつきがある。「仮に市が負担した金額が余ったとしても返還は不要、追加負担もしない」とする、これら市の不作為が招いた公金の支出は不適切で、地方自治法に定める住民監査請求が提出される可能性もあることから、議決責任が厳しく問われる本決算の認定に反対する。

総括質疑

●雪対策費について

問 決算における、雪対策費19億円という数字の受け止めと施策の成果について。

答 平年を上回る降雪で経費がかかり増した。市民が安全で安心な生活を送るために欠かすことのできない重要課題である。

(青山 豊委員)



●よこて農業創生大学事業の取り組みについて

問 民間企業との連携は、民間スキルの活用も考えられるが、まずはJAとの連携により、JAの持つ販売力を主としながらも、それぞれのネットワークを生かし進めていく。

答 民間企業との連携は、民間スキルの活用も考えられるが、まずはJAとの連携により、JAの持つ販売力を主としながらも、それぞれのネットワークを生かし進めていく。

(本間利博委員)



●農商工の連携と部局横断の在り方について

問 海外戦略全般についての目的、これまでの取り組みの総括、今後の狙い、具体的な目標は何か。

答 観光促進、経済振興など地域活性化と市の発展に寄与するものとする。各部署が蓄積した人脈や情報の共有で、部局横断による強固な取り組みを図る。

(奥山豊和委員)



(加藤勝義委員)



総務・財政・教育・生涯学習・消防

防災行政無線の今後の方針は

防災行政無線の維持管理費用はどのような内容か。またデジタル化により、現在のアナログ無線は使用できなくなるが、それ以降の方針は。

答弁 雄物川、大森、山内、大雄地域で使用しており、設備の点検料、電気料、修繕料、電波利用料、土地の借り上げ料等で534万円の支出であった。今後も使用できる限り使用し、いずれは防災ラジオに切り替える方針である。



防災備蓄品の配置状況は

防災備蓄品は災害が発生してから準備しては間に合わない。保管場所や各地域への配布方法について検討の余地があると思うがどうか。

答弁 金沢孔城館を中心に備蓄しているが、距離が離れた地区や孤立する恐れのある集落等には計画的に配備したい。特に孤立集落については今年度中に実施したい。



ふるさと納税について

昨年度いただいた寄付金約5億円の使い道を決める際はどのように話し合いを行っているのか。また、返戻率を30%以下にする法律改正について、どう考えているのか。

答弁 寄付をいただく際に、どの分野で使用してほしいか意向をお聞きし、最終的には関係課で協議し決定する。また、法制化された後も横手らしさをアピールしながら、選ばれるよう準備していきたい。



ALTの英語授業について

小学校での英語授業の成果をどのように考えているのか。

答弁 外国語によるコミュニケーション能力の育成、外国語文化への気づきや理解、外国語へのなれを目標に、ALTを8人配置し、小学校5、6年生の外国語活動を年間35時間確保してきた。ALTの配置により確実に力をつけているものと考えている。



農商工業・観光・土木・建築・上下水道

農産品のブランド化は

市長は2年前の一般質問で農産品のブランド化を3年から5年をめどに、という答弁をしている。現在ブランド化はどこまで進んでいるのか。

答弁 現在は伝統野菜のブランド化、発酵分野では機能性を表示できる味噌の開発、市場シェアの拡大対策として、よこて農業創生大学事業を通じて、スイカやキュウリ、トマトなどをきちんと供給できる体制づくりを行っている。



新規就農者へのフォローは

*青年就農給付金事業において、受給後も含めた受給者の経営状況のチェックや経営分析による助言、指導は行っているのか。

答弁 就農状況報告は受給終了後も5年間提出してもらっている。新規就農の農家だけでなく、受給を終えた農家に対しても県やJAなど関係機関と連携し支援を行っている。



歴史まちづくりの課題は

*歴史的風致維持向上計画が認定されたが、この計画を今後のまちづくりにどう生かしていくのか。

答弁 この計画により、さまざまな文化財等の価値付けが行えたと考えており、その価値を市内外に向けどう発信していくのが課題であるので、解決に向けて取り組んでいきたい。



除雪オペレーターの確保について

人員確保の見通しはどうか。

答弁 現在のオペレーターの平均年齢は48歳であるが、中間層の40代のオペレーターが不足しており、人員不足を懸念している。今後はバックモニター搭載の除雪車を増やし、運行状況を検証しながら、1人乗車による運行も考慮していかなければならないと考えている。



ココが聞きたい!

9人が市政を問う

9月4～6日は一般質問が行われ、9人の議員が市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。

一般質問には、一括質問一括答弁方式と一問一答方式の質問方法があり、議員はどちらかを選んで質問を行っています。

一括質問一括答弁方式

議員がすべての質問項目を演壇で一括して質問し、その後、市長や教育長が演壇でその質問項目すべてに一括して答弁をします。
再質問は、議員は質問席で行い、市長側は自席で答えます。

一問一答方式

議員は質問席で質問項目ごとに順番に質問し、市長側は自席で答えます。



QRコードを読み取ると、録画をご覧いただけます。

●組織機構再編案について

問 地域協働部と市民センターの設置及び市民福祉部との関連について、市民の混乱を招かないか。

答 地域局を「市民センター」と名称変更し総合窓口係を配置する案としているが、紛らわしいという指摘も理解できるため、引き続き検討する。市民生活機能と健康福祉機能の本庁部門を市民福祉部に一本化し連携することにより、窓口利用がしやすく、円滑に手続きできる形を構築したい。

問 子育て支援課を教育委員会の所管とすることは、幼少時から勉強が第一義とならないか。また、児童保育を放課後子ども教室に一本化させる布石ではないかと懸念するがどうか。

答 幼児期から学齢期まで一体的な施策展開、一歩進んだ幼少連携が図れないか考えている。児童保



「市民センター」への統合が想定されている地域課と市民サービス課

育と放課後子ども教室の件は組織再編の狙いとしては着目していないが、児童健全育成分野を含め、子育て支援策全体について効果的な組織再編になるよう検討する。

問 建設水道部を設置した場合、職員減少の中で調整・協力体制が現実として可能か。また、国が主導する水道事業の民営化を市でも進める方針なのか。

答 事業間の連携強化や専門的な職員の柔軟な配置を図るため検討している。水道事業の民営化は組織再編案としては想定していない。

A 各地域局に総合窓口と案内係を設置する

Q 市役所組織の再編は、市民を第一に



立身 万千子 議員



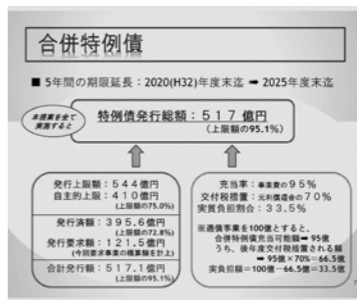
寿松木 孝 議員



Q 施設展望案は事業実施による財政悪化を懸念する

A 全ての事業実施は考えていない

問 今回示された公共施設展望では、合併特例債の発行上限額の95.1%、総額51.7億円を充当し、活用する方向性が示されており、事業を最大限に実施した場合危機的な財政状況に陥るシミュレーションとなっている。判断に至った経緯と内容について伺う。



市から提示された合併特例債のシミュレーション

答 この計画で示した発行総額は、現段階で想定される施設整備の最大推計値であり、これを前提として事業実施を決定づけるものではない。財政シミュレーションは社会情勢の変容等で適時見直しを図り、発行総額について議会と協議を重ね、また、施設展望についても市民・議員と協議を重ねていく。

問 施設整備の方向性を確認する意味での市民アンケートの実施によって、市民からは実際に整備するものと捉えられていないのが心配されるが、実施した意図について伺う。

答 このアンケートは、施設の整備や配置に対する市民の「ありがたい姿」を広く認識したもので、結果がすぐに施設整備の決定につながることは考えていない。調査対象となった施設は全市を対象とする大型施設であり、整備の可否や優先順位、整備の在り方等には慎重な判断が必要となることから、アンケート結果に加え、具体的な規模や事業費、財政的な観点を踏まえ、議会と議論を深め施設整備の方向性を絞り込んでいく。

●横手駅東口再開発事業について

問 市長は今議会の所信説明の中で、「市民と行政との共通の課題であり当然市が関与すべきものである」と発言しているが、その手法や施設計画について伺う。

答 事業実施に向けて、大きな判断材料となる事業規模や公益施設の整備方針については議会からの意見をいただきながら決定したい。また、市民の皆様へは、今後も機会を捉えて説明を重ねていきたい。

問 公益施設とは図書館機能を持った複合施設か、また場所は旧ユニオンビル跡地を考えているのか。

答 「にぎわいの創出」を可能とすることを前提に検討している。集客力のある施設を核とした複合施設を目指し、多くの中高生や高齢者の皆様の活用を想定、近隣公益施設との機能再編等も視野に協議している。旧ユニオンビル跡地は



再開発計画がある横手駅東口エリア

A 集客力のある施設を核とした複合施設である

Q 横手駅東口再開発における公益施設とは



高橋 和 樹 議員





土田 百合子 議員



Q 「横手市子ども権利条例」を制定する考えは

A 子どもの権利を尊重する取り組みを推進する

問 市では、「子どもの権利宣言」から10年になるが、条例制定に向けてどのように進めるのか。

答 現在、次期横手市子ども子育て支援事業計画「夢はぐくむゆきんこプラン」の計画に向けたニーズ調査を進めている。児童の権利に関する精神に基づき推進していく。

問 地区交流センター化が進められる中で「地区防災マップ」の作成は、早急に推進すべきであると思うがどうか。

答 各地区や町内会等の単位での防災計画や防災マップの作成は、早急に取り組む課題であり、地区会議での説明など順を追って進めていくことを検討している。

問 防災マップの活用方法は。

答 市民に「防災マップ」の内容を認識していただけるよう説明の場を増やしていく。



子どもの権利条例制定を望む

問 アンダーパスの安全対策はどのようになっているのか。

答 大雨時に冠水の恐れのある所が3箇所あり、緊急時に備え、排水放流先や設備の点検をしている。今後は、さらなる対策として「予告看板」の設置を行う。

問 市立小・中学校に空調(冷房)設置が必要でないか。

答 全教室への設置を考えた場合、費用は膨大になる。児童生徒が暑さから避難できる場所の確保として図書室や会議室など共有できる教室を中心に設置を行う。



菅原 亀代嗣 議員



Q 小中学校にエアコンの整備を

A 共有できる教室を中心に設置を進める

問 工事検査は専門性が求められるので、土木技師、建築技師などの検査員を配置してはどうか。

答 業務の適正化や工事の品質向上を目的として、共有できる教室を中心に設置を進めたい。普通教室への導入については、市や議会と協議、検討を進めたい。

問 2022年から成人年齢が18歳となるが、二十歳のお祝いの会として開催したらどうか。

答 成年年齢が引き下げられた後の成人式の開催時期、場所、開催の仕方について検討する。また、二十歳のお祝いの会についても、検討する。



8月15日に開催された成人式の様子

上を図るためには、豊富な知識と経験のある技術系職員が検査業務にあたるのが望ましいが、担当する技術系職員自体が不足している現状であり、配置は難しい。

●成人式について

問 2022年から成人年齢が18歳となるが、二十歳のお祝いの会として開催したらどうか。

答 成年年齢が引き下げられた後の成人式の開催時期、場所、開催の仕方について検討する。また、二十歳のお祝いの会についても、検討する。

Q 園芸協定の取り組みの進捗は

A 園芸振興推進会議で協議、検討している

問 平成30年から戸別所得補償や減反政策が廃止となった。農業生産基盤整備事業の受益農家の所得補償について伺う。

答 園芸振興推進会議を立ち上げ、農業者の所得向上や担い手育成のための取り組みなどを主なテーマとし、3つの分科会を設置し協議を行っている。先に議員から提案のあった、土壌分析結果の活用や園芸作物の生産工程管理も検討している。



現在進行中の農業生産基盤整備事業(旭地区)

●農業振興施策について

問 市では、農家所得の向上を目指し、収益性の高い園芸作物の作付拡大を支援することだが、一定の生産地域で出荷の安定を図るため、集団産地を形成し生産振興する必要が思う。現在の生産者数と作付面積を維持するための支援対策など、J Aとの園芸協定の取り組みの進捗状況は。

答 園芸振興推進会議を立ち上げ、農業者の所得向上や担い手育成のための取り組みなどを主なテーマとし、3つの分科会を設置し協議を行っている。先に議員から提案のあった、土壌分析結果の活用や園芸作物の生産工程管理も検討している。

答 地力増進作物の作付を条件に10アール当たり1万円を交付することとしている。整備期間中の所得補償については、事業主体である県に対し働きかけていく。

問 多面的機能支払交付金事業について、樹園地等への交付金の支払いはどの程度か。また、今後の対応はどうか。

答 樹園地のうち多面的機能と中山間地支払交付金の対象面積割合は全体の20%弱だ。今後も農家や団体等に事業への取り組みについて働きかけていく。



菅原 正志 議員



Q 地区交流センター化への本気度は

A 対話を重ね、取り組みを進める

●地区交流センターについて

問 持続可能な地域づくりのためにはセンター化の取り組みは重要。進めるにあたっての本気度は。

答 さまざまな団体が連携するなどし活動する自主運営組織の育成が重要と考える。地域の皆様との対話を重ね取り組んでいく。

問 これまでの市の取り組みや、市民への説明が足りないのではないか。

答 住民主体、協働のまちづくりをうたっているため、内容的に住民自ら立ち上げるべきという理想はあったが、ある程度スタートするための道筋や歩み方、例を示すべきであると感じた。

問 交流センターでの活動や立ち上げに向けては地域局ごとにアドバイザーが必要だ。地域を熟知する再任用職員を配置してはどうか。

答 再任用を含むベテラン職員の



自らの手による醍醐の夏祭り

●適正な職員配置について

問 市民満足度を高めるため、職員の適性や資質をよく把握した適正な配置となっているか。

答 職員の業務経験や個人個人の能力を確認しているほか、意向調査により業務に対する意欲を把握し適性を見極めていく。

■その他の質問

●財産経営推進計画の進捗と施設整備計画とのバランスについて

答 再任用を含むベテラン職員の



大日向 香輝 議員



山形 健二 議員



Q 有害鳥獣の被害を防ぐための環境整備を

A 住民とともに取り組んでいく

●有害鳥獣の被害防止について
 問 センサーカメラを4台設置し調査しているようだが、現時点でどのような結果になっているのか。
 答 人身や農作物への被害防止強化のために導入した。ツキノワグマの行動を把握することで注意喚起ができたほか、捕獲に至ったケースなど効果も見られる。
 問 有害鳥獣と住民との突然の遭遇により発生する人身被害等を防止するため、県事業で実施した緩衝帯等整備事業の成果と継続性について伺う。
 答 昨年度22件のツキノワグマの目撃情報があった横手公園周辺を今年度5・6ヘクタールほど整備した。藪払いや除伐により見通しを良くすることで、出会いがしらでの遭遇被害防止など安全確保につながる。整備した地区の目撃情報は、今年度は5件と大きく下回った。
 問 行政と住民等が役割分担しながら管理するゾーニング管理や環境整備の実施、電気柵の設置が有効と思うがどうか。
 答 住民の皆様の総意により実施を希望する集落等があればご相談いただき、ともに取り組んでいく。また、公園や学校周辺については環境整備につとめる。電気柵については危険性もあるため、慎重に対応する必要があると考える。
 ■その他の質問
 ●有害鳥獣駆除事業の予算増



緩衝帯整備着手前(横手公園内)



緩衝帯整備完了後(横手公園内)

Q 地域おこし協力隊はなぜ導入しないのか

A 国の動向を注視しながら検討する

問 先の一般質問で検討するとしていた地域おこし協力隊について、なぜ導入しないのか。
 答 有効と認められる分野に適正な人材をいかにマッチングさせていくのか、国の動向も注視しながらさらに検討を進める。
 問 ひとり親家庭は年間就労収入が少なく、市の家賃相場も高いと考えられる中で、住居に関する支援が必要だと思うがどうか。
 答 低額家賃で入居できる住宅の相談に対しては、市営住宅の紹介もしている。市として家賃を補助することは、現行制度では難しい。
 問 高校生まで医療費を助成している自治体もあるが、市では実施しないのか。
 答 ひとり親家庭については、子どもは高校生まで、さらには親の医療費も助成の対象にしている。
 問 増田まんが美術館の最寄り駅



支援制度を紹介しているひとり親家庭のしおり

である、十文字駅のバリアフリー化についてどう考えているか。
 答 毎年JRに要望書を提出している。一日も早くバリアフリー化を整備していただけるよう、今後要望を継続する。
 問 「道の駅十文字」の指定管理料が段階的に減額している。利益を上げるほど減額するのであれば、企業のやる気が失われるのでは。
 答 指定管理者がもうけたからといって、指定管理料を減らすつもりはない。サービスが低下しないよう事業者と協議して決めていく。

台風被害対応の補正予算可決

横手市議会ホームページ厚生常任委員会のページがご覧いただけます



◆30年度一般会計補正予算(第3号)
 問 加工に向かない落下リンゴの収集搬送経費を補正することだが、焼却にかかる費用は間に合うのか。
 答 処理経費としてはかかり増しするが、当初予算措置した中で対応できる。
 問 自家処理した残りの30トンと1日5トンずつ搬入することだが、どのような搬入体制なのか。
 答 フレコンから出す作業があるため、ユニック車1台と運送用ダンプトラック3トン車1台で1日2往復の積算である。
 問 経費の積算基礎が250トンであるのに対し、持ち込まれた量が30トンとのことだが、予算は多めに確保してあるとの認識で良いか。
 答 そのとおり、受け入れ期限まで搬入できなかったなど、今後問い合わせがあった場合には被害の状況を確認し個別に対応していく。
 ◆横手市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
 問 なぜ今、家庭的保育事業所を作らなければならないのか。
 答 都会では、待機児童がいるため



クリーンプラザに搬入された台風被害による落下リンゴ

◆平成30年度横手市病院事業会計補正予算(第1号)
 問 職員駐車場の整備後、借り上げ駐車場は順次解約することだが、現状の職員駐車場は足りているのか。
 答 登録されている横手病院職員の駐車台数は375台、現在の駐車可能台数は328台であるが、準夜勤や夜勤など勤務時間が違っているため足りている状況である。
 ◆地方消費者行政に対する財政支援(交付金等)の継続・拡充を求めることについての陳情

委員より賛成の立場で、横手市において消費者の相談を担っている方は、非常勤職員でありながら時間外でも対応してくれている。その状況で交付金が減り、研修の機会も奪われてしまうのは市民にとっては大きなことだ。議会も関係のあるところには発言していかなければならないと思う」との討論があった。
 起立採決の結果、全員賛成により採択すべきものと決定した。

旧南部環境保全センターに運び込まれた落下リンゴ(フレコンに収納)
 問 なぜ今、家庭的保育事業所を作らなければならないのか。
 答 都会では、待機児童がいるため

に小規模施設を増やそうとしている状況にある。市としては、小規模施設を増やそうとしている訳ではない。厚生省令の改正に伴い、その基準に合わせて条例改正するものである。
 ◆横手市介護保険条例の一部改正
 問 介護小規模多機能型居宅介護を国の方針に従い認めるということだが、市ではどのように進める予定か。
 答 事業者の申請に基づき指定することとなっている。市で開設するということではなく、現在市内に該当する事業所はない。



台風21号によるリンゴの落下被害（増田地域）

株式会社山内観光振興公社への 貸付金595万円放棄

横手市議会ホームページ産業建設常任委員会のページをご覧ください



◆30年度一般会計補正予算(第2号)
 問 大雪対策産地緊急支援事業の需要はどの程度あるか。
 答 パイプハウス2件3棟、ぶどう棚2件263アールである。
 問 ため池整備事業では防災との関係を念頭に置いて整備を進めてもらいたい。どのように管理把握しているのか。
 答 防災重点ため池が37ヶ所あり、決壊の影響範囲も想定している。7月と8月には58ヶ所のパトロールを行ったが、異常は確認されなかった。
 問 ナラ枯れの状況と対応策はどのようにしているか。
 答 平成25年頃から被害が増え始め、29年度の被害木は5380本になる。大木化の前に伐採をして自然更新を促し、伐採した木はチップ材として利用促進したい。

◆30年度一般会計補正予算(第3号)
 問 果樹被害への迅速な対応は評価するが、台風は事前に予測ができる部分もある。被害を予防するため、事前対策などの周知は行ったのか。
 答 FM放送や個別メールなどで注意喚起した。今回の支援は、農家個々の対応だけでは防ぎきれなかった

◆30年度一般会計補正予算(第2号)
 問 東京キャラバンの目的と事業内容について伺う。
 答 東京オリンピックを機に文化発信の新たなムーブメントを生み出すことを目的に開催するイベントで、今年度は当市を含む国内3ヶ所で実施する。その負担金の補正である。
 問 東京キャラバンは絶好のシティーセールの機会と捉えるが。
 答 監修される方が野田秀樹氏など著名な方が来るとなれば、好機と捉えている。



防災重点ため池（増田地域 倉刈沢）

被害に対して行うものである。
 ◆権利の放棄（株式会社山内観光振興公社に対する貸付金）
 問 当初は貸付金全額が返済され、出資金も配分できるという説明だったが、なぜ約590万円の貸付金を放棄するのか。
 答 大雪の影響などから2月の営業成績が振るわず、前年比約1500万円売り上げが下がったことなどが要因である。

問 年間パスポートの販売をやめたことで、地域の常連客が離れたことも原因ではないか。
 答 譲渡に伴い年間パスポートの発行ができず、特別謝恩企画などのテコ入れを行ったが、回復に至らなかった。
 問 山内観光振興公社は市からの長期貸付金を毎年確実に返済してきたが、今後も返済を見込めなかったが、貸付金を放棄する判断は何だったのか。

答 温泉事業については、一斉に民間譲渡するという市の方針があり、ご理解をいただきたい。
 ◆公の施設の指定管理者の指定について（市営住宅など計43団地と関連施設）
 問 応募が一者だけだったが、条件の設定が厳しかったのではないか。
 答 条件に一級又は二級建築士の常駐、防火管理者の配置を求めていることが要因の一つと考えられる。

（本間 利博）



公文書館に生まれ変わる旧鳳中学校の工事現場を視察

増田まんが美術館の 指定管理 議論白熱

横手市議会ホームページ総務文教常任委員会のページをご覧ください



◆30年度一般会計補正予算(第2号)
 問 東京キャラバンの目的と事業内容について伺う。
 答 東京オリンピックを機に文化発信の新たなムーブメントを生み出すことを目的に開催するイベントで、今年度は当市を含む国内3ヶ所で実施する。その負担金の補正である。
 問 東京キャラバンは絶好のシティーセールの機会と捉えるが。
 答 監修される方が野田秀樹氏など著名な方が来るとなれば、好機と捉えている。

問 債務負担行為の補正中、増田まんが美術館指定管理料に関しての限度額2億7千万円の算出根拠は。
 答 市が積算した基準額と、指定管理審査会に団体から提出された収支計画を基に積算した3年間の指定管理料の合計額である。31年度は9170万円、人件費5200万円、施設管理費950万円、原画収蔵アーカイブ費600万円、企画展開催経費1500万等の内訳である。

起立採決の結果、賛成多数により決すべきと決定した。
 ◆公の施設（増田まんが美術館）の指定管理者の指定について

問 初めての指定管理で予想がつかない点が多くあり、指定管理料が年間約1億円と高額だ。指定管理期間を最初から3年間とした理由は何か。
 答 経験がないことで3年とした。年度協定の中で見直しや修正は可能である。数年先の事業計画を練りながら交渉しないとよいものがないことも多い。
 問 市はどのようにかかわるのか。
 答 指定管理者を育てながら、教育やまちづくりと連携して事業を進めていく。経費として年間3、4千万円をみている。

問 次の指定管理更新のために、評価は重要だが、成果や指標の数字的なものはあるか。
 答 報告書の提出やモニタリングでチェックしていく。大規模企画展であれば5千人とか、交流イベント1回50人という目標を立てている。

◆横手市公文書館についての陳情
 委員より、「官民一体となり事業を推進して欲しい」とする賛成討論と、「現状では古文書業務を公文書館事業に入れることは困難だ」とする反対討論があった。



継続維持の陳情が出された山内スキー場を視察

起立採決の結果、どちらも賛成少数により不採決とすべきと決定した。
 ◆テレビ共同受信施設の大規模改修工事に係る工事費用の負担軽減についての陳情
 工事費用の助成を求めているが、工事は間もなく終わるといふ状況であり、費用は賄えていると判断するとの意見があった。

起立採決の結果、賛成なしにより不採決とすべきと決定した。

◆山内スキー場継続維持についての陳情
 6月定例議会では継続審査とし、スキー場の視察もした。廃止に向けた予算計上がされている中での継続は難しいとの意見があった。
 起立採決の結果、賛成なしにより不採決とすべきと決定した。

（高橋 聖悟）

協働による防災のまちづくり運動

7月9日 香川県丸亀市

丸亀市川西地区では、予想される南海トラフ地震などの大規模災害に備え、地域を自分達で守るため自主防災組織を結成。その活動が評価され、防災まちづくり大賞(総務大臣賞)、防災功労者内閣総理大臣表彰に輝いている。協働によるまちづくり運動の先駆けとして模範的な地区となっている。

ポイント

- 教育現場における防災研修
避難所の設営、運営
体系的防災設備、備蓄品の整備
県内全域に渡る防災ノウハウの提供

以上の取り組みにP(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを導入し実施している。

視察を終えて

- 災害時は、行政依存ではなく身近なコミュニティで活動できるための準備と訓練を実施することが大切である。
地域をまとめるリーダーの育成が必須である。(菅原 恵悦)



ICT教育推進事業

7月10日 愛媛県西条市

市の将来ビジョンに「スマートシティ」を掲げ取り組んでいる。学校では、他校の教室と大型画面で繋ぎ遠隔合同授業を行うバーチャル・クラスルームを実現し、授業の質の向上と複式学級や中一ギャップの解消に努めている。

ポイント

- 教室に電子黒板を設置
既存黒板との併用でより分かりやすく、質の高い授業を行っている。
校務支援システムを導入
子ども達と向き合う教員の時間の確保に努めている。
全校にICT支援員を配置
教師を総合的にサポートする人員を配置している。

視察を終えて

- 小学校では、プログラミング教育が必修となるため、タブレット等、IT環境の整備が課題である。
ICT支援員の専門的な役割が大きいため配置の検討が必要である。
西条市は学校統合をしない方向でICTに力を注ぎ、「地域の学校」を存続。学校統合しないという選択肢の議論も必要。(土田百合子)



「坂の上の雲」のまちづくり

7月11日 愛媛県松山市

松山市内には、司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」ゆかりの史跡や資源が数多くある。これらを1つの作品にたとえ、市内全体を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちづくりをしている。中心市街地には、拠点となる坂の上の雲ミュージアムがある。

ポイント

- 市内全体をセンターゾーン、サブセンターゾーンとし、回遊性を高めている。
事業費約70億円を費やし、松山城周辺や道後温泉周辺の重点整備を実施している。
この構想に主体的に取り組む市民団体やNPOに対し活動支援をしている。

視察を終えて

- 「坂の上の雲」がドラマ化し放送されたことを機に、市内全体のまちづくりに官民挙げた「オールまつやま」で活動。この核となる「坂の上の雲ミュージアム」を指定管理者が運営しており、とても参考になった。(加藤 勝義)



産学官連携について

7月31日 長野県上田市

エーレック AREC(浅間リサーチエクステンションセンター)は平成14年に上田市が信州大学内に設置。産学官連携施設で、市の補助金に頼らず、260社を超える会員企業からの会費や事業収入で運営している。ネットワークを創出し、コーディネート役を担うことにより地域全体の産業振興に繋がっている。

ポイント

- 人材
市職員が信州大学で学び、ARECのセンター長に。
産学官連携
大学の研究と地元中小企業の技術をマッチングさせ、地域課題を解決。
自治体連携
隣接9市町村の多様性を活かし、次世代イノベーション産業を推進。

視察を終えて

- 東信州9市町村の連携が生まれた背景に、議会同士の繋がりがあった。私たちが県南4市2町1村の結びつきを更に深めたい。
動くのは民。行政として、地場産業を支援する組織とそれを支える人材育成が急務。
横手にゆかりのある人材を力に。(奥山 豊和)



観光振興と海外戦略

8月2日 岐阜県高山市

総面積日本一を誇り、インバウンドが叫ばれる前から海外戦略に力を入れてきた。人口約89,000人のまちに年間462.3万人の観光客が訪れ、うち外国人宿泊者数は51.3万人、観光消費額は940億、経済波及効果は1,994億円という国内有数の観光地である。

ポイント

- 行政が扉を開き、民間がもうける
海外プロモーションを官民連携で組織する国際誘客協議会とともにやっている。おもてなしには民間のノウハウが蓄積されている。
「海外戦略部」の役割、行政の本気度
常に海外を意識した仕事をするため、幹部職員は英検準二級取得が必須。世界各地、国内の観光組織に市職員を派遣している。

視察を終えて

- wi-fi整備や多言語化をどれだけ行おうが、まずは、他の文化を受け入れる意味を理解しなければならず、それは国内の観光誘客にも通じる。
地域特性を活かしたDMOの推進により、どの地方も外国人旅行者を取り込める可能性を秘めている。(奥山 豊和)



コンパクトなまちづくり

8月1日 富山県富山市

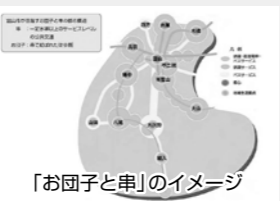
全国11番目の総面積の富山市。過度な自動車依存は公共交通の衰退を招き、低密度な都市は維持コストが増え、人口減少と高齢化がこの問題をさらに深刻化させるといふ共通課題が、コンパクトシティの推進に取り組んだ背景にある。

ポイント

- 「お団子と串」の都市構造
一定水準以上の公共交通を「串」、串で結ばれた徒歩圏が「お団子」。郊外を否定せず誘導的手法を基本としている。
市長のリーダーシップ
住民との対話を重ねエリアを設定。人口の4割を誘導するため、公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住を推進、中心市街地の活性化の方針を決定。

視察を終えて

- 高齢者向け公共交通料金の割引で、歩数増により医療費削減に結びつく数値が示されている。
ハード・ソフト両面で徹底して市中心部に人が向かう流れを生み出したことにより、中心市街地への民間投資が進み、地価も上昇。公的支援ありきではない。(奥山 豊和)



「お団子と串」のイメージ

議会改革の取り組みについて

7月23日 岩手県紫波町
7月24日 岩手県久慈市

紫波町議会では、議会基本条例制定以前から、一般質問や緊急質問への反問権付与、議員問討議が導入されている。
久慈市議会では議員問討議について、「討論」ではなく、議員の意思決定前の「対話」による話し合いを目指し、政策提言に向けても活用している。

ポイント

- 紫波町議会
平成23年1月議会から通年議会を、平成24年3月議会から政形成サイクルを導入し、早い時期から改革に着手している。
久慈市議会
議案の審査前に議員問討議の場を設け、論点を想起・整理・共有し、委員会審査を進めている。

視察を終えて

- 議員間の話し合いを深め、課題を全体で共有することが大切。
ホワイトボードなどを活用し、話し合いの見える化する。
議会モニター
導入は、議会と市民の距離が縮まり、意見を通して議会の活性化につながる。(佐藤 清春)



議会運営システム

一般会計当初予算の審査方法について、紫波町議会では、常任委員会での論点整理、議員問討議を行い全員協議会で課題を共有した後議案審査を行っている。久慈市議会では、本会議で提案説明を受けた後、総括質疑を行うことから委員会付託をしており、全体で審査を行うが分科会審査は行っていない。

ポイント

- 紫波町議会
議案を早期に提示し、議員が個々に議案の事前調査・検討を行う。議会招集初日に常任委員会での論点整理に望む。
久慈市議会
政形成サイクルと連動した議論をしていくため、予算・決算の常任委員会化を検討している。

視察を終えて

- 議案審査前に議員問討議や論点整理を十分に行い、全議員と課題を共有することでその後の議案審査や政策提言にも結びつく。できるだけ早く、議員問討議について共通理解を深め、その仕組みづくりが必要だ。(佐藤 清春)



第7回

議会報告会・意見交換会

今年度も地区会議との共催により議会報告会を開催します。市や地域が抱える課題についてじっくりと語り合いたいと思いますので、皆さま、ぜひおいでください!!
たくさんの皆様のご来場をお待ちしています!



私たちがおじやまします!
※齋藤光司議長は、班に属さず、オブザーバーとして参加します。

1班



佐藤誠洋、奥山豊和、大日向香輝
小野正伸、菅原恵悦、立身万千子

10/15(月) 18:00~	金沢孔城館
10/17(水) 18:30~	十文字庁舎 2階大会議室
10/19(金) 19:00~	川西地区交流センター
10/22(月) 18:30~	館合地区交流センター
10/23(火) 18:30~	Y ² ぶらざ 研修室3
10/25(木) 18:30~	ふるさと館

2班



山形健二、播磨博一、佐藤忠久
遠藤忠裕、高橋和樹、土田百合子

10/15(月) 18:00~	大森コミュニティセンター
10/16(火) 18:00~	山内公民館 (山内庁舎 2F)
10/18(木) 18:30~	かまくら館 5F 研修室
10/22(月) 19:00~	さかえ館
10/23(火) 18:30~	オアシス館
10/24(水) 18:00~	雄物川コミュニティセンター

3班



高橋聖悟、寿松木孝、佐藤清春
菅原正志、鈴木勝雄、佐々木喜一

10/15(月) 19:00~	大雄庁舎 第一会議室
10/17(水) 18:00~	里見地区交流センター
10/19(金) 18:30~	福地地区交流センター
10/23(火) 19:00~	旭ふれあい館
10/24(水) 18:00~	八沢木公民館
10/26(金) 18:30~	亀田地区交流センター

4班



菅原亀代嗣、本間利博、青山豊
加藤勝義、塩田勉、木村清貴

10/16(火) 19:00~	サンサン横手
10/17(水) 18:30~	前田公民館
10/19(金) 19:00~	狙半内地区交流センター
10/22(月) 18:00~	平鹿生涯学習センター
10/24(水) 19:00~	増田地区多目的研修センター
10/25(木) 18:00~	あさくら館

子育て世代

市議会議員



9月25日(火)、旭ふれあい館において、子育て真っ最中のお父さんとお母さんにお集まりいただき、横手市での子育てについてお話しを伺いました。

- ♥産後の赤ちゃん訪問時に、もっときめ細やかに話を聞いてもらいたい!
- ♥子育て情報サイト「はくはく」に、秋田県や他市の子育て情報も載せてほしい!
- ♥屋内、屋外で子どもが思いっきり遊べるアスレチック施設が欲しい!
- ♥横手は雪が多い!
公共施設に屋根付の駐車場が欲しい!



- ♥スキー場が無理なら雪遊びができる場所が欲しい!
- ♥横手市は子育てしやすいまちだと思う!
とくにソフト面では不自由を感じたことはない!
- ♥急な用事や体調が悪いときなど、当日でもファミリーサポート制度を利用できるようにしてほしい!
- ♥乳幼児と小学生と一緒に遊べる場所が欲しい!
- ♥もっと親子がリラックスして利用できる図書館が欲しい!

よここで子育て奮闘中!!
私たちが期待しています!!





議会の主な動き


7月


- 2日 FM番組収録、八千代市議会行政視察受け入れ
- 9日 総務文教常任委員会行政視察（～11日）
- 17日 7月臨時議会、全員協議会（行政課題説明会）、議会改革推進会議、消防議員連盟研修会
- 19日 FM番組収録
- 23日 総務文教常任委員会協議会（教育委員会との意見交換会）、議会改革推進会議行政視察（～24日）
- 24日 全国市議会議長会国と地方の協議の場等に関する特別委員会
- 25日 秋田市市議会議長会実行運動、広報広聴委員会広聴分科会
- 26日 秋田市市議会議長会研修視察（～27日）
- 30日 産業建設常任委員会協議会
- 31日 産業建設常任委員会行政視察（～8月2日）

8月

- 4日 **友好都市厚木市議会表敬訪問**（～5日）


友好都市厚木市議会にて議場を見学しました。
- 6日 全員協議会（行政課題説明会）、会派代表者会議、FM番組収録
- 7日 京丹後市議会行政視察受け入れ
- 14日 FM番組収録
- 17日 議会改革推進会議
- 20日 **議員研修会**


「地方創生」時代の議会の使命」と題し、青森中央学院大学 佐藤淳先生より、*ワールドカフェ、議員間討議などについて学びました。
- 21日 正副委員長会議、議会運営委員会、広報広聴委員会広報分科会、全員協議会（議案説明会）、議員懇談会
- 22日 FM番組収録
- 23日 タブレット端末活用推進会議、
北上市・西和賀町・横手市議会交流会


西和賀町にある山菜の栽培ほ場を視察しました。
- 24日 **友好都市那珂市議会表敬訪問**（～25日）


戸村城主の菩提寺である那珂市の龍昌院を見学し、総代の皆さんより説明を受けました。
- 27日 市議会9月定例議会（～9月20日）、タブレット端末活用推進会議
- 30日 広報広聴委員会広報分科会

9月

- 4日 議会運営委員会、広報広聴委員会広聴分科会、FM番組収録
- 6日 議会改革推進会議
- 10日 広報広聴委員会広聴分科会
- 18日 議会運営委員会、広報広聴委員会広報分科会
- 19日 全員協議会
- 25日 子育て世代との意見交換会
- 27日 広報広聴委員会広報分科会

表紙の写真

横手北中学校男子ハンドボール部活動の様子
 （撮影：加藤勝義）

シリーズ Y8 ワイエイト vol.2

Sparkle ～心でつむぐ ぼくらの絆～

横手北中学校生徒会執行部

横手北中学校は、今年で開校6年目になりました。一昨年度制定された「友愛 生新 躍動」の校訓のもと、この5年間で先輩方が築いてくださった土台の上に、新しい北中の1ページを創り上げようと頑張っています。

「Sparkle ～心でつむぐ ぼくらの絆～」という生徒会テーマは、一人ひとりがそれぞれの役割を見つけて頑張り、輝くことで、その輝きがいろいろな人や物、地域とのつながりの中で紡ぎ合わさり、更に輝きを増し、大きな力となることを表しています。これは、「北中らしさ」についての生徒アンケートで「同学年・他学年とのつながりが強い」「地域とのつながりを大切にしている」という意見が多く見られたことから設定されました。

これら北中らしさは、先輩たちが、各行事に向けた応援練習や歌練習等の異学年交流等を積み重ねて培ってきたものであり、地域とのつながりは、統合前の各中学校から連綿と引き継がれてきたものです。これらの財産を大切にしながら、今後も生徒会活動を活発にし、金沢八幡太鼓やかまくらボランティア、サケの稚魚放流活動等を通して地域の方々との交流の輪を広げられるよう頑張っていきたいと思います。



横手北中学校生徒会執行部の皆さん

編集後記

大好きな夏が、子どもの大会や遠征、お祭り事であつという間に終わってしまい、楽しかったが寂しい。その思いは、これから始まる味覚の秋で埋めようと思う。米、芋の子、フルーツ。この時ばかりは健診結果は気にしない。横手食のファンであるから。（高橋 聖悟）

◆ 広報広聴委員会広報分科会 ◆

分科会長 奥山 豊和 副分科会長 山形 健二
 委員 加藤 勝義 委員 播磨 博一
 委員 高橋 聖悟 委員 土田百合子